

病弱特別支援学校のリソースを生かし、地域のニーズに応える支援活動

～不登校支援及び医療的ケア中核校としての取組から～

新潟県立柏崎特別支援学校 教諭 谷 実 咲

I はじめに

本校は、病院に隣接する病弱特別支援学校である。現在は、脳・神経・筋疾患や重度・重複の病症の入院生が在籍している。入院生には、学校看護師による医療的ケアを受けながら学校で学習する者もいる。また、通学生を受け入れた平成16年以降、心身症や発達障害のある生徒の割合が高くなり、近年、高等部の通学生や中学部への転入生の中には、不登校経験のある生徒もいる。本校のセンター的機能の一環として行ってきた教育相談でも、不登校に関する内容が増えており、不登校への対応が地域全体の課題として顕在化していることが分かる。

一方、本校は、県の「医療的ケア中核校」として指定されており、医療的ケアコーディネーターを中心に、隣接する「医療的ケア中核病院」や他の医療機関と連携して、他校への支援にも力を入れている。

本校のこれまでの病弱特別支援学校ならではの教育活動や、隣接病院を始めとする地域の関係諸機関との他職種連携を生かした支援活動を行うことが、本校の地域での大きな役割である。本校のセンター的機能の取組の中から、以下の2つについて報告する。

II 取組の概要

I 不登校支援

(1) 教育相談（通称：アドバンス）の取組について

① アドバンスの目的と概要

心身に様々な困難を抱える不適応・不登校等の児童生徒に対し、在籍校への適応を目指して、定期的な教育相談や個別の指導を行っている。指導は本人の実態に合わせて、在籍校、当校、場合によっては入院先の病院で、週1回約1時間、教科学習（学び方の支援）や自立活動である。

在籍校とは、「実施毎にメール等で情報交換」「定期的な支援会議の実施」「在籍校主導の進路指導」「別室登校や適応教室の助言」等の連携を行っている。また、医療機関とは、児童生徒の主治医と必要に応じて面談、メール等で情報共有している。

2 医療的ケアに関わる支援

(1) 地域の学校支援の取組について

① 他校の学校看護師・教職員に対する支援

医療的ケア中核病院と連携して、病院内での実地研修や学校見学の機会を必要に応じて設定したり、相談などに随時対応したりしている。また、医療的ケアに対する教職員向けの研修会を実施している。

② 他校からの医療的ケア児童生徒に関する相談対応

医療的ケア実施校からの相談を受け、医療的ケアを安全に実施するための情報提供や助言を行ったり、必要に応じて医療的ケア中核病院への相談や見学、受診同行などにつなげたりしている。

III まとめ

I 成果と今後の課題

病弱特別支援学校のリソースを生かし、関係機関と連携して、地域のニーズに応えている。今後も、医療を必要とする一人一人の児童生徒が、将来に渡って地域で自立や社会参加できることを目指し、地域全体の学校教育がより充実するよう、特別支援学校のセンター的役割を果たしていきたい。